こばやしスクールサポートボランティアセンター発行　２０２０年８月５日(水)　第 ９ 号

School Volunteer KSSVCだより Kobayashi Support Center

学校向け

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局（℡22-7912）

暑中お見舞い申し上げます

１学期前半は約７０件の活動を取材させていただきました。新型コロナへの対応等で大変な中、先生方には大変お世話になりました。

暑い日が続きます。お身体に気をつけてお過ごしください。

須木小　戦争体験

お話は井口(いのくち)進さん、９０歳(昭和４年生・小林市真方在住)。１５歳で難関の大分陸軍少年飛行学校に入隊、１６歳で終戦を迎えました。

【お話より】　◇　国のために自分に何ができるか考え、飛行機乗りにあこがれて猛勉強、合格しました。◇　大分の飛行学校に出発する日、小林駅に多くの人が集まり送ってくれました。　◇　昼間5時間、夜も自習をしました。中学校に進学した同級生よりも勉強していたと思います。　◇　グライダー訓練を終えても、飛べる飛行機がありませんでした。地雷を抱えて戦車の下にもぐりこむ訓練ばかりしていました。
◇　8月15日、別府の演習場から帰隊する途中で敗戦を知り、茫然となりました。
◇　同世代の若者がたくさん亡くなりました。 46年間、知覧の慰霊祭に参列しています。

紙屋小　七夕づくり　１・２年生

「コロナがはやくおわりますように」という短冊を何枚も見つけました。願いが届きますように！

「紙屋いきいきサロン」の皆さん４名が来てくださいました。１週間に１度、地域の高齢者が公民館で交流をしています。さまざまな七夕飾りはサロンのメンバーの手作りで、１年前から準備をしてきたそうです。

皆さんは紙屋小の子どもたちとの交流をとても楽しみにしておられます。「来年の七夕の準備を、もう始めていますよ！」と、元気よくおっしゃっていました。

小林小　兵児踊りの学習　４年生

真方一区兵児踊り
保存会の皆さん

兵児踊りの由来や継承活動、衣装について教えてもらいました。４年生は話を聞きながら熱心にメモを取り、時間が足りなくなるくらい、たくさんの質問をしていました。

【質問への答えから】 ◇　昭和38年に、口伝えで教えてもらい、途絶えていた踊りを復活させました。 ◇　衣装に合うように、普段はわら草履で踊ります。運動会は靴です。 ◇　踊る場所によって輪になったり、列になったりして踊ります。 ◇　戦いに備えての踊りですが、余興のように楽しんでもらう場面もあります。

須木中　Web 講演会　２年生

講師は羽田野祥子（はたのしょうこ）さん。教育プランナー、熊本県出身。東京での学生・社会人生活を経て、日南市に移住。中高生のキャリア教育や社員研修、社会教育事業などに取り組んでいます。

「ZOOM」を使ったリモート授業です。職場体験学習を前に、働くことについて学び、自分の資質や能力を振り返りました。

中・高時代の羽田野さんは極端な人見知り。インドア派で友だちも少なかったそうです。でも、海外でのホームステイやボランティア活動、会社での勤務を通して、目的を達成する手段としてコミュニケーション能力を技術として身につけてきました。

学習支援ボランティア　～ 野尻小の取組 ～

この日は3名の方が、国語と算数のまる付けをしていました。

野尻小では、毎日、１～５名のボランティアが先生方のお手伝いをしています。取組の詳細について、児玉校長先生に聞きました。

【きっかけは？】 平成 30 年(2018 年)の 12 月、前任の栗須小でボランティアを希望する方と出会ったこと。

その方を始め十数名の支援者が集まり、授業やまる付けの手伝いをしていただくようになりました。

【野尻小では？】 栗須小のボランティアや地域の婦人会、民生委員の皆さんから情報を得て、14 名の方に支援をお願いしています。「校長室だより」でも募集を呼びかけましたが、人づてで協力者を募る方が確実でした。

【開始までの手順と支援の内容は？】 希望者には面談をして、ボランティアの目的や内容、留意事項等について説明。守秘義務や子どもたちへの言葉かけなど、コンプライアンスに関わること、事故等への補償についても伝えました。試しの活動を経て、同意が得られれば時間と支援内容を決め、お一人ずつ登録書を作成します。

先生方には、依頼する際の手順を説明。作業内容を記した「お願いの文書」や「依頼カード」（下図）も準備しました。お願いするのは、プリントの印刷、提出物のチェック、宿題や小テスト等のまる付けです。依頼はしますが、「担任が必ず最終確認」することを共通理解しています。

また、急に来校できないことがある旨も先生方には了承してもらっています。

休校の期間が長かったので、7月になってようやく、毎日、どなたかに来校いただける体制ができてきました。授業の支援は、これから少しずつ行っていく予定です。

【ボランティアの皆さんにも聞きました】

○　婦人会の役員さんや民生委員さんから聞き、一度試してみて決めました。家がすぐ近くなので、学校の役に立ちたいとはずっと思っていました。学校と校長先生の応援団のつもりでいます。

○　週に一度、午前か午後の短い時間ですし、都合が悪ければ断れますので、無理をせず続けられます。

○　準備していただいた答えを見てまる付けをしています。自分でも漢字を書いたり計算をしてみたりしますが、忘れていることも多く、とても勉強になります。今までの生活にはなかった体験ですし、他の方と一緒に作業するのは楽しいです。頭を使うので、認知症の予防にもなっているかもしれません。

【成果と課題について】

児玉校長先生

学習支援ボランティアについてのお考えを、前任校での実践も含めて聞きました。（◇成果　◆課題）

◇　ボランティアの方から声をかけていただくことで…
・ 児童がより集中して学習に取り組むようになります。
・ 学習面でのしつけが行き届きます。 ・ 学習意欲を一層高める児童もいます。

◇　ボランティアの助言によって理解が促され、学力を高める児童もいます。

◇　練習問題のまる付け等の支援によって、授業の効率化が図れます。

◇　「学級運営支援」により、職員の事務量を一部削減することができます。その分、児童の他の面に目を向けることができます。

◇　宿題プリントのまる付け等では、職員が多忙の中で行うより、丁寧な処理がなされることもあります。

◇　支援活動を繰り返す中で、ボランティア自身の技術も向上します。

◇　地域住民とつながりをもつことで、学校運営上参考になる情報を得ることができます。

◇　協力者の「生活の張り」につながっている様子も見受けられ、取り組んでよかったと感じています。

◆　職員への啓発や意識改革をさらに進めていく必要があります。

◆　多数のボランティアが来校している時は、失礼のないように、依頼内容の細やかな確認が欠かせません。

◆　職員が安心して依頼できるよう、支援体制のさらなる充実を図る必要があります。

「２つの学校でボランティアを募集しましたが、どちらの地域にも『学校のために何かしたい』と考えている方がいらっしゃいました。その方々にどうアプローチをしていくかが課題だと思います」と、児玉校長先生はおっしゃっています。

「学習に関わる支援は難しい」と感じている地域の方もいらっしゃいます。野尻小でも、その点を考慮して、作業内容や手順を工夫することで、手伝いやすい環境を整えようとしています。ハードルを低くした支援、やりがいが生まれる支援を考えることで、より多くのボランティアの協力が得られることでしょう。

また、支援されるだけでなく、地域が求める協力を学校がどう形にしていくかも、地域学校協働活動の課題だと思います。

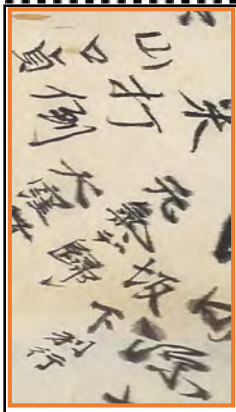
市内の小中学校でも、学習支援の事例が年々増えてきました。学力向上を図ることだけが目的ではありません。先生方は助かり、ボランティアも生きがいが得られる。学校と地域が協力してのまちづくりのためには、双方にメリットがある協働活動は、今後、さらに必要になってくることでしょう。

こばやしスクールサポートボランティアセンター発行　２０２０年８月２０日(木)　第１０号

School Volunteer KSSVCだより Kobayashi Support Center

学校向け

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局（℡22-7912）



出征兵士へ寄せ書きをした日の丸が社会教育課に寄贈されました。（2020.8.4 宮日に掲載）

「武運長久」や「盡忠(じんちゅう)報国」、「英米打倒」という勇ましい言葉が並ぶ中「元氣デ歸レ」という一文が見えます。見送った人たちの本心が短い文章に込められているようで、読みながら切なくなりました。

思ったことを口にできる平和な時代は、戦争の犠牲になった方々を含め、多くの先人たちから受け継いだものです。次の世代に繋がなくてはと、寄せ書きを見て改めて思いました。

紙屋小　ハートタイム

「たんぽぽ」の皆さんによる読み聞かせ

「たんぽぽ」は野尻で活動しているサークル。平成１３年から紙屋小で読み聞かせをしています。この日は８名の皆さんが、２学年ずつ３つのグループに分かれ、４５分間、たくさんの絵本を読んでくださいました。

子どもたちはもちろん、サークルの皆さんも久しぶりの読み聞かせを楽しんでいました。

三松小　ものづくり体験学習

６年生

左上から、染色・和裁（コースター）・板金（銅板レリーフ）・左官（砂壁の絵）

４つの職種に分かれて制作。指導は技能士の皆さん（ものづくりマイスター）。難しい部分は手伝ってもらいながら、90 分間、熱心に取り組みました。思い出に残る作品を手に、子どもたちは満足した表情を浮かべていました。

須木中　いのちの講演会

上杉省栄さん：薬剤師「ワン＆オンリー宮崎いのちの会」。3番目のお子様が「18トリソミー」という難病で生まれ、短い一生を終えたお話をしてくださいました。

妊娠中に病気が分かり、ご夫婦で悩んだり励まし合ったりしたお話や、誕生直後のお子様の動画に、生徒たちは身動きもせず、真剣な表情で聞き入っていました。

【お礼の言葉より】 上杉さんのお話に胸をうたれました。これからも命を大切に生きていきたいと思います。

野尻小　鑑賞教室　～お話とパントマイム～

【お話】濱﨑けい子さん　【パントマイム】後藤慶子さん

濱﨑さんは「のはらうた」をさまざまな感情を込めて、地球からのメッセージ「地球のこどもたちへ」を力強く読んでくださいました。

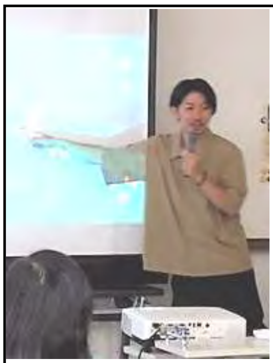
後半は後藤さんのパントマイム。言葉をひと言も発せずに、日常の出来事を動きだけで表現します。子どもたちも、「風船」や「目の前のかべ」をやってみました。

【お礼の言葉より】コロナで沈んでいた私たちに笑顔を届けて下さり、ありがとうございました。

ガイドボランティア研修会

小林市ガイドボランティア協会の研修会です。地域おこし協力隊のお２人に話を聞きました。テーマは「動画作成講座 超入門編」。

活動を記録したりリモートでのガイドに役立てられたらと、ユーチューブの動画を参考に学びました。メンバーの皆さんは、動画を撮った経験はほとんどないとのことでした。でも、研修をきっかけに、今後、SNS で小林の史跡などを紹介することがあるかもしれませんね。



ガイドボランティア研修会

細野中　人権を考える講演会

３年生

黒木瑞季さん。 脳は女性、体は男体で生まれました。ご自身の生い立ちを通して、LGBTへの正しい理解を講演等で啓発しています。宮崎県男女共同参画地域推進員

「１人の女の子が生まれ、男の子として育てられました。でも、その違和感や周りの反応に耐えられないことがたくさんありました」。黒木さんのお話はこのように始まりました。

心に残ったいくつかの言葉を紹介します。

◇　男子の制服、男女別の着替え、中学校の丸坊主、級友との会話を避けて過ごした昼休み、修学旅行での入浴…。これらは、私の悩みや苦しみでした。

◇　「男らしくない」自分を責め、歩き方やあぐらで男子をまねていると1日でへとへとでした。

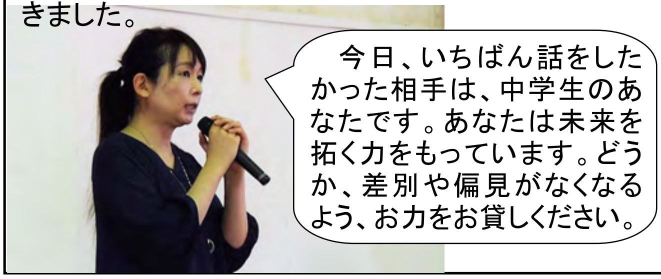
◇　国内のLGBTの割合は、10人～13人に1人だと言われています。それは、左利きや血液型がAB型の人と同じ割合なのです。会ったことがなかったのではなく、気づかないだけなのです。

◇　私はいじめたり差別した人たちを恨んではいません。これからの子どもたちが、私と同じ境遇で悩まないように、社会を変えたいと思っています。

◇　笑いをとるために「オネエ」をいじる番組もあります。生まれながらの個性が、笑いの対象にされない社会が理想です。

◇　さまざまな危険を承知で、11時間の大手術を受けました。その時多くの友だちが支えてくれました。

◇　初めて女性の服を着て鏡の前に立ち、「これが思い描いていた自分の姿だ」と思うと、どっと涙があふれてきました。



紙屋中　陶芸教室

総合的な学習の時間「ふるさとを知る」

１年生

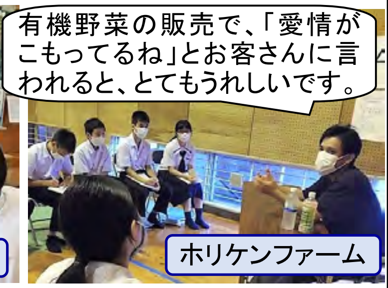
指導は地元の陶芸家園田貞哉さん。粘土のひもを重ねる「ひもづくり」の手法で、湯飲みや一輪挿しなど、個性あふれる作品を作りました。

今後、素焼きや絵付けをして窯で焼き、完成した作品を文化発表会で披露します。

小林中　職業体験講話

２年生

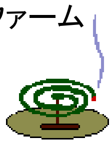
坂下組（建設業）



ホリケンファーム

小林中とキャリア教育支援センターとが連携して実施。16のブース、20名以上の講師によるキャリア学習です。希望する職業ごとにグループを作り、４つのブースを20分ずつ訪問して話を聞きました。参加していただいたのは…

ムタホーム（不動産業）、 自衛隊小林地区事務所
トヨタカローラ宮崎、 坂下組（建設業）、 ソニー生命
BRIDGE the gap（公共施設の運営委託業務・飲食事業）
NTTドコモ小林店、 Learners meet（英語・学習支援等）
青年海外協力隊（高校教師）、 地域おこし協力隊
イートスタイル（外食・食物販事業）、 ホリケンファーム
市立病院： 管理栄養士・診療放射線技師
市立病院： 助産師・理学療法士
市 役 所： 医療介護連携室



事業所が一堂に会することで、さまざまな職業の話が一度に聞け、生徒にとっては大きな学習効果が得られます。同時に、講師間のつながりが生まれ、情報交換の場にもなっています。これは、地域学校協働活動の「緩やかなネットワーク」のきっかけにもなることでしょう。

今年１月には、永久津小を会場に、5校合同キャリア学習が８つのブースを設けて実施されました。(2019年度.学校向18号で紹介しました)

持続可能なまちづくりのためにも、小学生の段階から、キャリア学習を通して視野を広げ、生き方を考える子どもたちが増えてほしいと、キャリア教育支援センターの藤田さんは話しています。

【事務局より】 訪問の際は、事前にお尋ねしますので、延期や中止の連絡は不要です。新型コロナの終息には、まだまだ時間がかかりそうです。

こばやしスクールサポートボランティアセンター発行　２０２０年９月３日(木)　第１１号

School Volunteer
KSSVCだより
Kobayashi Support Center

学校向け

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局（℡22-7912）

「講師のお話の伝え方」について考える

「講師の皆さんの貴重な体験や熱い思いが子どもたちにきちんと伝わってほしい」というのが、活動に当たっての先生方の願いでしょう。資料や現物を準備したり、写真や映像を使うなど、分かりやすくするための工夫がたくさんあります。これまで参観させていただいた中から、いくつかの事例を紹介します。今後の参考になれば幸いです。

【前振り・紹介】 始まる前に、主に校長先生や担当者が行います。講話に関連する内容で、児童生徒の興味や関心を高めます。「さあ、いよいよ始まりますよ～」と、雰囲気を盛り上げるのが上手な先生もいました。

【インタビュー方式】 項目を絞って話していただきたい時に適していますし、講師も話しやすくなります。
　あらかじめいくつかの質問を準備して、進行役が質問をしながら、講師と一緒に話を進めていきます。

感話の時間（三松小）

【パネル(ディスカッション)方式】 複数の講師が、同じ質問にそれぞれ答えるやり方。議論はなくても、回答を比べることで、様々な考え方や価値観に触れることができます。地域の方がパネラーになった授業で、「今の小中学生に望むことは？」と聞かれ、「地域の活動に協力してほしい」とか「勉強や運動など、今やるべきことをがんばってほしい」という答えが一度に聞けました。

【ブース方式】 よのなか先生やキャリア学習でよく見られます。講師ごとにブース（部屋や仕切り席）を設けて、児童生徒が時間を区切って訪問し話を聞きます。希望する内容の話が効率よく聞けます。

ドリームジャンボ学園（須木中）

キャリア教育（西小林中2年生）

【板書・TT】 難しい言葉を文字にして説明したり、要点を黒板に書いたり、外部講師と歩調を合わせて授業に臨みます。担当の先生と講師の役割は授業によって変わりますが、「分かる授業」が目標です。
　講師を迎えた活動で、どうすれば子どもたちの理解を深められるか、よく議論される課題です。

ホタルの授業(小林小３年生)

【要約・くりかえし】 授業の振返りやインタビューでよく行われます。話の節目に「今まではこういう内容でした」と、授業者や司会者がまとめます。子どもたちの理解を確実にするためには効果的です。小学校低学年でよく見られます。

【プチ・キャリア教育】 講師のキャリア（経歴や積み重ねた経験）は貴重な「教材」です。事前にお願いして、授業のテーマにかかわらず、学生時代の夢やその仕事に就いた経緯など、ご自身のことに少し触れてもらうのも、児童生徒には良い刺激になるはずです。
　質問の時間に、「どうして今の仕事を選んだのですか」と、尋ねた先生もいらっしゃいました。

【感想】 講話の最後に「質問と感想は？」と尋ねる先生もいます。質問は思いつかないけれど、感想は言えるという子どもたちもいることでしょう。講師にとって、感想はお礼の言葉と同じくらいうれしいものです。

【お礼の言葉】 代表の児童生徒が、原稿なしでお礼を言う姿がいいですね。短くても構いません。その後、全員で「ありがとうございました」。

これからもホタルについて調べたいです。家の近くの田んぼでホタルを見ます。

ホタルの授業(南小３年生)

気づかれた方もいらっしゃると思います。紹介した５枚の写真には「マスク姿」が１人も見当たりません。実は、昨年度の活動の様子です。
　１日も早く「あの頃の生活様式」に戻れる日が来ることを願っています。

【事務局より】 学校外にボランティアと学校をつなぐ役割を担い、実績を集約し、報告書まで作成する部署（担当者）が必要であると感じる。
　学校からいただいた「課題と方向性」にあったご意見です。学校と地域をつなぐのがKSSVC 、学校と企業・事業所はキャリア教育支援センターという認識でいましたが、まだまだ私たちの働きが足りないと反省しました。
　要望等は遠慮なく事務局までお寄せください。軽いフットワークでお役に立ちたいと思っています。

青年海外協力隊員の講演会

赴任先の民族衣装で

【山下慎司さん】 小林市三松出身。都立練馬高校教諭。JICA 青年海外協力隊員として南アフリカ共和国に派遣され、現地の中学生に数学を、先生たちには教授法の指導をしていました。

新型コロナウイルスの世界的な拡大により３月下旬に一時帰国。小林の実家で農業の手伝いをしたり、三松地区で無料の学習教室を開いています。（教室は無事終了。小中学生延べ350名が参加しました）

野尻中

質問や感想を入力中

【山下さんのお話より】

◆ 洗剤を使わず、環境にやさしい商品「洗濯マグちゃん」が現地の人々の役に立つと考え、社長さんにメールを送ったところ、提供していただけることになりました。

◆ 「日本に行きたい」と願う少女がいました。でも、収入を考えると無理。（地域の平均年収は12万） そこで、100万円を目標に、クラウドファンディングで資金を募りました。半分ほど集まった時点で、コロナで中断しています。行動すれば、助けてくれる人はいます。

須木中

◆ 礼儀正しさや授業への取組など、南アフリカに行って、日本の良さやすごさを改めて感じました。

◆ 言葉が大変でした。英語はほとんどしゃべれないので、コミュニケーションがとれるよう、もっと勉強したい。

◆ 学校は朝７時30分からひとコマ30分の授業が始まり、午後２時には終わります。部活動のような活動はありません。

◆ 中学時代から海外にあこがれがあり、教員10年目という節目に何かしたいと思って応募しました。

東方中

◆ 私は禁止していますが、授業中に平気でガムを噛みます。注意されると教室のロッカーに捨てたりします。

◆ 学校の清掃は掃除をする人の仕事を奪うことにもなるので、やりすぎないように気をつけました。

◆ 生活は快適で、日本に帰りたいとは思いませんでした。 ◆ みなさんの行動力を磨いてください。

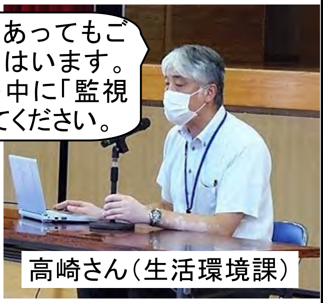
【お礼の言葉より】 ○ 行動しないと何も変わらないことが分かりました。（野尻中） ○ 僕もできることがあれば挑戦したいと思います。（須木中）
○ 今日のお話で、毎朝のボランティアに参加する人の意識も変わると思います。（東方中）

野尻小 いのちの教育 ４年生

心音を聞いています。

清武町にある「みやざき動物愛護センター」の出前授業です。動物の写真や絵、模型などをたくさん使い、命の大切さと動物との共生について学習しました。分かりやすい説明に子どもたちはよく反応し、真剣に、そして楽しく学んでいました。（講師は赤木さん・田原さん）

三松中「ごみ」と「水」の講話 １年生



高崎さん（生活環境課）

１年生は小林市の「ごみ」と「水」について調査し、現状を知り、課題を見つけ対策を考える学習をしています。まとめた結果は、秋の文化発表会で報告します。3H_2Oを守り、美しいまちをつくっていくために自分たちができることを考えました。

幸ヶ丘小 木工教室

毎年、夏休みに実施している放課後子ども教室

森林環境教育・木育の一環です。森林組合のお二人から森林の働きと森を守る活動について話を聞いた後、ポストを作りました。

ふたを蝶番でつなぐ工程ではやや苦戦しましたが、毎年行っているため、金づちの扱いが上手な子もいました。

これまでにも木製の写真立てやベンチなども作っていて、子どもたちにとって夏休みの楽しい思い出のひとつになっています。

こばやしスクールサポートボランティアセンター発行　２０２０年９月１７日(木)　第１２号

KSSVCだより

School Volunteer
Kobayashi Support Center
学校向け
小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局（℡22-7912）

震災前のショッピングセンター

須木中　防災教育

～あの日を忘れない～

９月１日は防災の日、避難訓練を始め、いろいろな防災教育が学校で行われました。その一つ、須木中の「東日本大震災に学ぶ」を参観させていただきました。

被災しながらも、新聞記者として取材を続けた岩手日報の鹿糠(かぬか)敏和さんからオンラインでお話を聞きました。

鹿糠記者

【お話より…】◆　地震発生時は大船渡の市役所にいました。社内では津波が来たら写真を撮るようになっていたので、高台へ向かいました。しかし、渋滞のため、海岸近くのショッピングセンターの屋上に上り、結局、そこで一夜を過ごしました。今思えば危険な判断でした。
◆　震災後１週間は、取材活動はしていたものの、記憶があいまいで悲しみなどの感情もない状態でした。そんな時、漁港の人たちの復興をあきらめない姿を見て我に返り、記事にしました。（それでも海に生きる）
◆　３月31日、地域の協力でやっと行われた小学校の卒業式を取材。子どもたち一人ひとりの言葉に、震災後初めて涙を流しました。それまでの20日間は、泣きも笑いもしない状態でした。あまりにも非現実的な日常が続いていたからだと思います。
◆　電話は不通。記者が手分けして避難所を回り、5万人分の名簿を写し取り、安否情報として掲載しました。
◆　「生き残った命」「亡くなった命」「生きていく命」をテーマに記事を書きました。

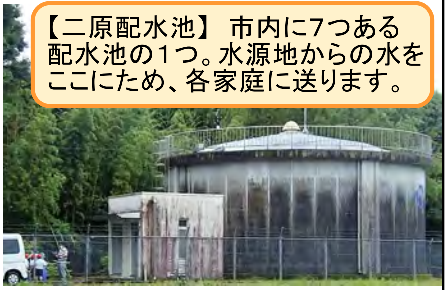
【質問への答え】■　大切な人が津波で亡くなったかもしれないと思うと怖かったです。　■　支社が崩れたので避難所や他の支社に泊りました。８月頃、アパートにやっと入れ、元の暮しに少し近づきました。　■　防災セットは準備していましたがすべて流されました。でも、用意しておいた方がいいと思います。ヘルメットが役に立ちました。■　４月７日に余震がありました。また同じことが起きるのではと思うと、本当に恐ろしかったです。
■　写真は安全な場所からとるようになっていましたが、私は市役所から海に向かってしまいました。
■　遺族にお会いして話を聞き、亡くなった方の生きた証として、新聞でお一人ずつ紹介しました。

休憩をはさんで約９０分。５人の１年生は、真剣な表情で話を聞き、熱心にメモをとっていました。東日本大震災の時は１～２歳。小学校で初めて震災の話を聞いたそうです。

【お礼の言葉より】亡くなった多くの方の命から、大切なことを教えてもらいました。

東方小　社会科見学（妙見水源地・二原配水池）

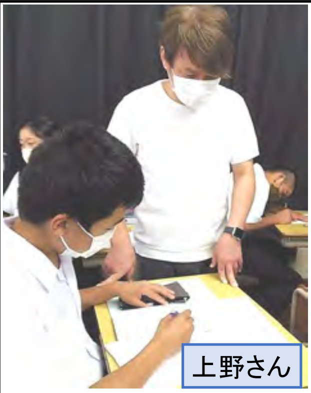
【妙見水源地】１日約2,500トンの取水量があります。池には着水井からあふれた水がたまり、川に流れます。


【二原配水池】市内に7つある配水池の1つ。水源地からの水をここにため、各家庭に送ります。

川の水や湧水が水道水になる仕組と家庭への供給方法、水資源の保護などについて学びました。水源を見るのは初めてという子も多く、熱心に話を聞き、興味深そうに見学していました。
水源地と配水池の情報は、設置してある機械から、職員のタブレットやスマホに届き、職員は24時間体制で監視しています。
（説明と案内は上下水道局の森さん・新地さん）

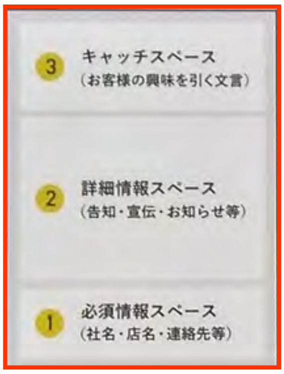
西小林中　情報発信の授業　２年生

修学旅行先で小林市を紹介するチラシを配ります。発信力のあるレイアウトや内容についてプロのお２人(ベクターデザイン)に聞きました。
ベクターデザインでは、看板の制作・Tシャツや部活のユニフォームのデザイン、建物の外装のアドバイスなどをしています。２年生は事前に下書きを準備して授業に臨みました。



上野さん

笹川さん

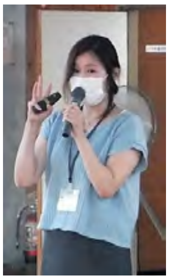


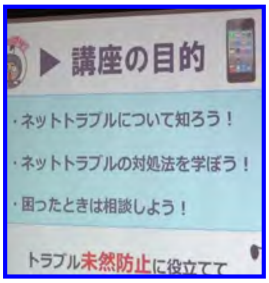
【チラシのポイント】 ◆ チラシは大きく3つの部分からできている。下からの方が作りやすい。◆情報を詰め込みすぎない。◆ すべて目立つようにすると何も目立たない。 ◆ 余白がある方が見やすい。 ◆ 左揃えですっきり！ ◆ タイトルはゴシック体、文章は明朝体が基本。◆ 蛍光色は難しい。 ◆ 原色から少しずらした色を使う。◆ グラデーションは「ダサイ」。使っても2色まで。◆ 縦横比を変えない。 ◆ 影のつけすぎに注意！ ◆ 会話文で説明してもよい。 ◆ QR コードで外部サイトにつなげると情報量が増える。

下書きを見た上野さんは、「写真やイラストが先行しているようです。小林を紹介する魅力的なキャッチコピーを先に考えてみましょう」とアドバイスをしてくださいました。

東方中 情報モラルの学習

宮原さん（県消費生活センター都城支所）





４つの事例について、「何がいけなかったのか」、「その対処法」について考えました。生徒の多くが日常的にスマートホンを使っており、消費生活啓発相談員の宮原さんのお話に、自分のこととして真剣に耳を傾けていました。

【こんなトラブルがありました】

① 「お試し」と思って購入したダイエットサプリメントが、定期購入の契約になっていたことが分かった。
② アダルトサイトの再生画面をタップしたら、突然、有料登録。連絡すると、法的手続きをとるとのメールが来た。
③ 息子がキャリア決裁でゲームの課金をしていた。携帯会社からの請求が合計26万円にもなっていた。
④ ぶどうを盗んで食べた時の動画が過去に拡散されており、その影響で就職活動がうまくいかない。

【お礼の言葉より】 情報機器の怖さを改めて知ることができました。

細野中 美しい町小林

１年生

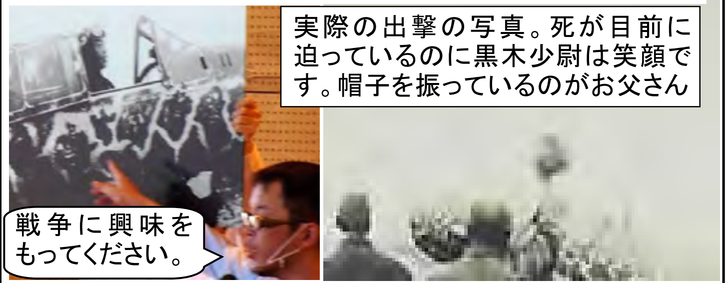
２クラスがそれぞれ５グループを作り、テーマごとに小林の現状と課題について、市役所の皆さんから話を聞きました。テーマは…

【A組】 観光、歴史･遺跡、果物、花（桜･コスモスなど観光地の花）、名水 【B組】 自然（星･ホタル）、畜産、特産品、ごみ処理、地域性（西諸弁）を活かした取組

テーマに関係する課から１２名の方が来校。様々な質問に丁寧に答えてくださいました。小林について初めて知ったこともたくさんあり、生徒たちは、美しい町をつくるために大切なことを真剣に考えていました。

小林中 平和学習「蒼天の向こうへ」

延岡出身の特攻隊員、黒木少尉の実話を基にした朗読劇です。演じるのは「サラみやざき」の皆さん。



実際の出撃の写真。死が目前に迫っているのに黒木少尉は笑顔です。帽子を振っているのがお父さん

黒木少尉は軍刀を父親に遺し出撃します。戦後、占領軍により武器回収の命令が…。父親は「お国のために息子の命を差し出したのに、この上、息子の魂である軍刀までも差し出せというのか」と唸りました。

黒木少尉の弟さんの話では、父親は軍刀が刃こぼれするまで、何度も何度も竹を切り、最後は鍛冶屋で真っ二つにしてもらったとのこと。武器ではなくなった形見の軍刀は、今も、弟さんが大切に保管しています。

【お礼の言葉より】 戦争をなくすための取組を、小林中でも考えていきたいと思います。

こばやしスクールサポートボランティアセンター発行　２０２０年１０月１日(木)　第１３号

School Volunteer KSSVCだより Kobayashi Support Center

学校向け

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局（TEL22-7912）

多くの小・中学校で運動会(体育大会)が開催され、「圧縮して盛り上がりました」と、大会後に、ある校長先生から聞きました。

「時間を短縮、観客を制限した中でも、子どもたちや先生方は、持っている力を精一杯発揮しました」という思いが、このひと言に凝縮されているように感じました。

練習や準備、競技や役員の仕事など、どれをとっても例年通りではなく、一つひとつ、感染対策を取りながらの実施だったことは、想像に難くありません。これから先、何年たっても忘れられない大会になったことでしょう。

お疲れ様でした。（大きな拍手！）

事務局では、コロナ禍の中でも元気いっぱい競技する子どもたちの様子を多くの方々に見てもらいたい、また、頑張る姿は地域にも元気を与える、という思いから、運動会（体育大会）の写真を募集しました。

その一部を中央公民館に掲示し、市のホームページでも紹介する予定です。（検索は、KSSVC→地域学校協働活動事業−小林市ポータルサイト）

ここがイチオシ！ わが校の運動会 ～コロナに負けるな！写真展～

紙 屋 小

城攻め踊り

紙 屋 中

小中合同「選手宣誓」

紙屋音頭

いつもは地域みんなで。今年は小・中学生だけで

紙屋よさこい

ダンス「フラッシュ・モブ

細 野 中

エール交換

ホソノソーラン

本校イチオシ「師弟愛」

野 尻 中

ラテンのリズムで準備運動

伝統の「ダンス応援」

今年初！3年生「集団行動」

小 林 中

3年団技

団対抗リレー

【事務局より】 写真を提供していただき、ありがとうございました。ここで紹介できるのは各校3～4枚ですが、今後、市のポータルサイトで、学校からのほぼすべての写真を掲載する予定です。元気をもらえる写真です。

解団式（小林中）
高く投げ上げた帽子が大会の盛り上がりを象徴しています。

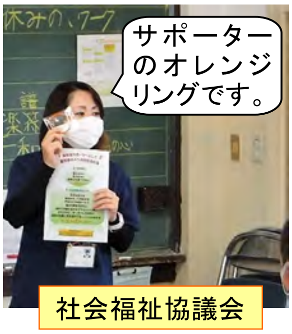
西小林中
がっつい こばやし

団対抗「創作ダンス」

【上】PTA 役員も一緒に「にっこば体操」【下】全校団技「綱引き」

西小林中　認知症サポーター養成講座

3年生



社会福祉協議会

かずばあちゃんが、日本の高齢化の現状、認知症の原因、認知症と物忘れとの違い、サポートの仕方などを教えてくれました。

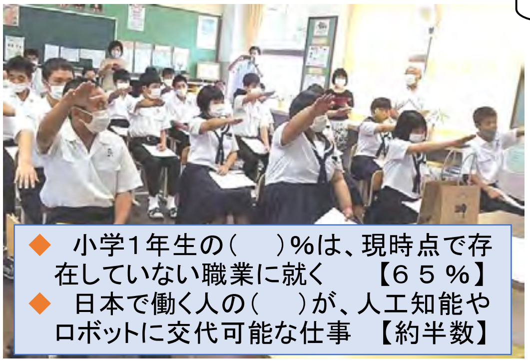
生徒たちは、西諸弁を交えながらの親しみやすく分かりやすいお話を真剣な表情で聞いていました。

【かずばあちゃんの教え】 ◆ 認知症は脳の病気じゃいよ。心の病気じゃなかよ。 ◆ にっこばの人々が力を合わせて、認知症の人たちを支えていく社会にしていかなければならんとよ。 ◆ サポーターの最初の役割は、今日学んだことを家族に伝えて話し合うことじゃってな～。

【お礼の言葉】 認知症の方が身近にいる時は、サポートすることが大切だとわかりました。

【かずばあちゃんとは？】 西小林の和（なごみ）福祉サービス代表　小倉和也さん。高齢者施設を運営する傍ら、地域住民が集える場として施設を開放しています。

須木中　キャリア教育講演会



ゲームでコミュニケーションの練習

２年生がオンライン授業でお世話になった羽田野祥子さんが来校。働くことやコミュニケーションが上手になる方法について全校生徒にお話してくださいました。

中・高時代の極端な人見知りを、仕事やボランティア活動等を通して克服したお話に、生徒たちは興味深く耳を傾けていました。

【お礼の言葉】 価値観や基準を理解して、いろいろな人と上手に接していきたいです。

※　羽田野さん（教育プランナー・日南在住）については、第9号で紹介しています

伝統芸能を受け継ぐ

紙屋小４～６年生 城攻め踊り

４名の保存会の皆さんの指導で、４年生が太鼓、５年生が太鼓と鉦、６年生が鉦の練習を行いました。この日が初めての４年生も、練習を重ねるごとに、動きがだんだんスムーズになっていきました。

野尻小５・６年生 棒 踊 り

指導は５名の保存会の皆さん。踊りの入場にあたる「出端（では）」に新しく取り組みました。入場のタイミング、細かな動き、掛け声などを丁寧に教えていただき、最後は、きれいな隊列を組んで入場することができました。

2つの踊りは、それぞれの運動会で披露されました。

こばやしスクールサポートボランティアセンター発行　２０２０年１０月１５日(木)　第１４号

School Volunteer KSSVCだより Kobayashi Support Center

学校向け

自立　「学びたい」「学ばせたい」気持ちを高める小林教育　感謝　貢献

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局（TEL22-7912）

学校を訪問した際、さまざまな掲示物の中にKSSVCだよりや協働活動の写真をよく見かけます。そして、うれしくなって、元気が出ます。

参観させていただく数は例年より少ないですが、感染対策を取った上での中身の濃い活動に出会えるのが楽しみです。

これからも、各学校の計画に沿って伺いますし、新たに決まった行事も、お知らせいただければ可能な限り対応します。

新型コロナの秋ですが、子どもたちが大きく「実る秋」です。

ここがイチオシ！　わが校の運動会 ～コロナに負けるな！写真展～

鉦踊りで児童が歌う「さのさ節」

栗 須 小

6年生「よさこいソーラン」

1・2年生「ダンス」

幸ヶ丘小

借り物競争

応援合戦

幸ヶ丘太鼓

小 林 小

6年生「表現」

4年生「兵児踊り」

5年生「ソーラン節」

三 松 中

エール交換

3年生「玉入れ」

新小林音頭

児童代表の言葉(1年生)

南　小

開会式「整列」

5年生「フラッグ演技」

6年生「おさるのかごや」

東 方 中

東方輪太鼓踊り

全員リレー

新竹取物語 2020

読み聞かせ

【　】は協力いただいている団体です。

何かに夢中になっている児童生徒の表情が実にいいですね。最近、いくつかの読み聞かせを取材して、その思いをさらに強くしました。
読書の秋にちなんで、読み聞かせの「しぐさと表情」を集めてみました。

須 木 小

【あすなろ会・小林図書館須木分館】

紙 屋 中

【たんぽぽ】

細 野 中

【ママーズ】

野 尻 中

目を閉じて…

【たんぽぽ】

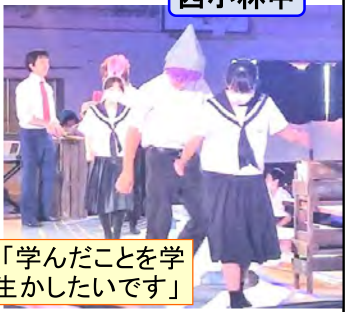
東 方 中

東方中では、以前から保護者による読み聞かせを行っています。今年度は保護者のボランティアを新たに募集しました。今後、7名の登録者が交替で受け持ちます。

鑑賞教室　～劇団こふく劇場～

明日から無人駅になる小さな山の駅。いつも笑顔でお客さんに接している若い駅員と、男の子に化けたきつねとの交流の物語「カチカチリンカリンカ」を鑑賞しました。「カチカチ～」とは、改札で切符を切るはさみの音です。

西小林中



お礼の言葉「学んだことを学習発表会で生かしたいです」

須 木 小

オ～！

お口の体操

西小林小・幸ヶ丘小

こふく劇場は都城市を拠点とする劇団です。希望者が乗客の役やダンスで舞台に上がりました。教科書で習った作品の読み聞かせもあり、団員の皆さんと楽しいひと時を過ごしました。

幸ヶ丘小　幸ヶ丘太鼓

運動会直前の練習。指導は響座の今村さんです。

幸ヶ丘小では全校児童による太鼓の演奏を長年続けています。運動会を始めいろいろな行事で演奏し、地域の皆さんも楽しみにしています。地域が元気になる新しい伝統です。

こばやしスクールサポートボランティアセンター発行　２０２０年10月28日(水)　第１５号

School Volunteer KSSVCだより Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局（℡22-7912）

学校向け

いきなりですが、この花は何でしょう？

◇ 地域の協力で栽培活動をしている小・中学校があります。
◇ 実を粉にして食用にします。
◇ 種をまいてから3カ月くらいで収穫できます。

答えは…

細野小 そばの花鑑賞会　４ 年 生

９月に蒔いたそばが咲きました。この日は、スケッチをしながら可憐な白い花やハート形の葉をじっくり鑑賞。絶好のスケッチ日和の中、青い画用紙にクレヨンを使って、思い思いに描いていました。

この後、収穫、そば打ちと学習は続きます。

市内では、永久津小・中学校が「そばプロジェクト」の名称で、種まきからそば打ちまで、小中が連携した取組をしています。

東方輪太鼓踊り　東方小５・６年生 東方中全生徒

朝鮮出兵の際、島津氏が軍勢の士気を鼓舞するために鉦や太鼓を打ち鳴らした様子が起源と伝えられています。

運動会での発表に向けた最後の小中合同練習です。保存会の方々の指導で練習を重ねてきた演技の最終確認を行いました。熱心に踊る児童生徒の動きや表情には、伝統を引き継いでいきたい、という思いが表れていました。

須木小「すき特産」見学　３ 年 生

栗の選別作業や加工場のエアシャワーを体験したりして、須木の特産品が商品として販売されるまでの流れを学習しました。売店でいちばん売れるのは「くりくり焼」（栗の入った饅頭）だそうで、見学の間も、数組のお客さんが買い求めていました。

すき特産の平川さんの夢は須木の栗を日本一にすること。「須木の良さをみんなに伝えてください」と、子どもたちにメッセージを送りました。　（別の日には、まちなか松栄を見学しました）

手 話 の 学 習　須木中 ３年生

指導は徳永さん（西諸聴覚障害者協会会長）と岡元さん（木の実会）

徳永さん

徳永さんは、聴覚障がい者の日常生活やコミュニケーションの方法について、体験をもとにお話してくださいました。来客を赤いライトで知らせる器具や補聴器の操作もさせてもらいました。
岡元さんからは、手話のあいさつと指文字を教えてもらい、自己紹介を練習し、発表しました。

紙屋小　3・5年生

福島さん（木の実会）
山口さん・図師さん
（野尻手話サークル）

起きる・道を歩く・バスや電車に乗る・銀行や病院に行くなどの場面で、聞こえない人が困ると思われることを考え、発表しました。
次に、聞こえない人とのコミュニケーションの手段について説明を聞き、手話でのあいさつと指文字を学習。最後に、数名の児童がみんなの前で自己紹介をしました。

南小　図書館見学　2年生

小林に図書館ができたのは明治41年。県内で2番目に古いそうです。今の図書館は昭和56年に建設。
1日250人が利用しています。

生活科の授業。職員の皆さんから図書館についての説明を聞き、館内を見学しました。
本を借りる体験では、たくさんの本の中から、迷いながらも２冊を選び、図書カードを使って借りました。カウンターでは、職員との受け答えに緊張気味の子もいましたが、読みたかった本を借りてほっとしていました。こういう場面での大人との会話は良い経験になりますね。

三松中　小林市未来予想図【発表会】

3年生

2クラスが4つの分野に分かれて発表。市役所の11課16名の皆さんと意見を交換しました。

【にぎわい】農業振興課・商工観光課・地方創生課
【いきいき】長寿介護課・子育て支援課・健康促進課
【まなび】学校教育課・社会教育課
【くらし】危機管理課・建設課・医療介護連携室

質問や要望に対しては、講師の皆さんから丁寧な説明があり、発表内容への感想やアドバイスもいただきました。たとえば…

◆ 私が中学生の時には「移住者を増やす」という発想はなかったです。◆ 災害時は公助1割、共助2割、自助が7割です。自分の命をどう守るかが大切です。
◆ 地域によって医師の数に差があります。◆ この中のどなたかが産婦人科医になってくれるとうれしいです。
◆ 市の文化祭に作品を出すのも、芸術への意識を高める効果があります。◆ 学校への1人1台のタブレットの配備を進めているところです。

【お礼の言葉】小林を住みたいまちにするために、私たちひとり一人も努力します。

「発表」の写真をお寄せください

運動会（体育大会）に加え、文化祭（文化発表会・学習発表会）の写真も募集します。各種の伝統芸能や小林市についての発表など、地域の皆さんと取り組んだ成果をお寄せください。（投稿ボックス→2020 発表）

岩戸神楽（三松中2年生）

各学校のホームページを、時折、拝見しています。
写真を使わせていただく際は、事前に連絡します。

こばやしスクールサポートボランティアセンター発行　２０２０年１１月１３日(金)　第１６号

School Volunteer KSSVCだより Kobayashi Support Center

学校向け

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局（TEL22-7912）

収穫の季節。稲刈りやさつまいもの収穫などの農業体験が行われています。鎌を使い、稲を束ね、機械での刈取りの体験や見学、掛け干し、脱穀…。

さまざまな活動を通して、子どもたちは農作業の苦労と喜び、食の安全など、たくさんの事を学んでいます。

まずは、稲刈りの風景から

野尻小　３年生

野尻保育園と野尻幼稚園の園児も参加しました。一生懸命に働いた後は、落ち穂を拾ったり、小さな生き物をさがしたり…。カエルやミミズ、いろいろな虫を手に取って観察していました。

小林小　５年生

刈り取って

ワラで縛り

干します。

３クラスが横一列、３列に並び、「刈る」「縛る」「干す」作業を次々に効率よく行いました。

刈った稲はしばらく掛け干しにした後脱穀します。

紙屋小　５年生

脱穀

紙屋中生

５年生と中学生が協力しててきぱきと作業を進め、予定より早く脱穀まで終えました。活動に当たっては、地域コーディネーターの杉元さんとPTA生活指導部に協力をいただきました。

西小林小　５・６年生

数名が稲刈り機を体験させてもらい、機械化が進んだ今の米作りについて学習しました。その後、鎌で刈り、ひもで束ねて掛け干しに。手際よく作業を進め予定より早く終えました。

次はさつまいもの収穫の様子です。

幸ヶ丘小　１～５年生

幸ヶ丘小

こども農園に植え付けたさつまいもを収穫しました。児童数の関係で去年より苗を減らしましたが、収穫は例年になく多かったそうです。畑の管理など、地域の方にお世話になりました。
（6年生は修学旅行の事前研修で西小林小へ…）

野尻小　１・２年生

５月に植えたさつまいもの収穫です。雨が多かったため、いもは例年より深いところに…。掘るのに少し苦労しましたが、大きないもが出てくるたびに歓声があがっていました。

田畑の管理、事前準備、当日の活動でJAや営農組合、地域の皆さんに大変お世話になっています。参加者にとっては、子どもたちが熱心に取り組み、収穫を喜んでいる姿が協力の「お礼」になるのでしょう。手助けする皆さんの満足そうな笑顔を見て、改めてそう思いました。

須木中　2つのオンライン学習

３年生

9月30日

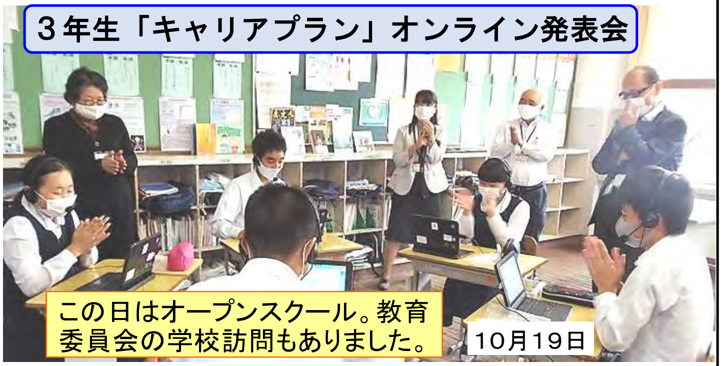
島根県の海士(あま)中学校3年生

海士町は隠岐諸島の中ノ島にあり、人口 2,300 人。中学校は 1 校、3 年生は12名。遠隔授業を実施して4年目。全国の学校とリモートで交流しています。

テーマは「リモートトリップ」。４名の３年生が島内の名所や名産品を紹介してくれました。原稿を読まずに、歩きながら、名物のお菓子を食べながらの実況は大変分かりやすく、プレゼンテーション能力の高さを感じました。

須木中の３年生も、送られてきたお菓子を食べ、質問や自己紹介をして交流を深めました。

３年生「キャリアプラン」オンライン発表会



この日はオープンスクール。教育委員会の学校訪問もありました。

10月19日

ゲストは児湯財団のお二人。２つのグループにそれぞれ加わって、生徒の夢や目標を聞き、感想を述べ、アドバイスをしてくださいました。

海士中との学習が刺激になったのでしょう、生徒たちはとても積極的に発表や質問をしていました。キャリアプランは発表ノート(スカイメニュー)で作成し、ズームで共有しています。

ここがイチオシ！　わが校の運動会
～コロナに負けるな！写真展～

永久津小・中

めしげ踊り

「めしげ」はしゃもじのこと。約800年前、肥後・薩摩を中心に唄い踊られた豊年踊りです。七・七調の相撲口説にのせ、大きなめしげを打ち鳴らして勇壮に踊ります。

永久津小1～3年生 ダンス

【事務局より】◆ 運動会（体育大会）の写真をお寄せいただき、ありがとうございました。事務局が訪問できなかった活動の写真をひきつづき募集しています。投稿ボックスをどしどしご活用ください。

◆ 今年度も実践記録集を作成します。原稿依頼の文書を、後日お届けします。締切は来年１月末の予定です。よろしくお願いします。